

# 大分県 (国東半島)

素材研究  
(国内)



毎年旧暦正月に行われる修正鬼会(しゅしょうおにえ)。国東半島では鬼は仏の化身とされています



国東市の岩倉社で行われる起源も由来も不明な祭「ケベス祭」



昭和30年代の町並みが再現された豊後高田市「昭和の町」



日本最大級の大きさを誇る熊野磨崖仏(くまのまがいづつ) [豊後高田市]



国東半島最大の仁王像が安置されている両子寺 [国東市]

全国に約4万ある八幡社の総本宮である宇佐神宮は「神仏習合文化」発祥の地

## 2018年の開山1300年を観光の柱に 神仏習合文化「六郷満山」を

「仏の里」として知られる大分県国東半島では、独自の仏教文化「六郷満山」が開花してから、2018年に1300年を迎えます。山岳信仰に天台宗、八幡神への信仰が結びついた神仏習合による六郷満山は、温泉県におおいたの新たな観光の柱として期待が高まっています。

### 「仏の里」国東半島を広く発信

国東半島を中心に広く分布する天台宗寺院群は「六郷山寺院」と総称され、そのほとんどが718年の仁聞菩薩開基伝説を開山の時期としています。宇佐八幡神の化身とも言われる仁聞菩薩は、国東半島の6つの郷に28の寺院を開き、6万9000体もの仏像を造ったと伝えられます。

宇佐神宮・弥勒寺に伝わった天台宗の実践の場として、九州でいち早く仏教の栄えた国東半島では、厳しい地形での修行を好む山岳宗教との融合により、独特の六郷満山文化が開花しました。

今年4月には、大分県と宇佐市、豊後高田市、杵築市、国東市、姫島村、日出町の地元自治体などで構成される「国東半島宇佐地域・六郷満山開山1300年誘客キャンペーン実行委員会」が発足。六郷

満山文化を観光資源として最大限に活用し、内外に広く発信するとともに、持続可能な観光振興の実現を目指しています。

### 伊勢神宮や熊野古道にも匹敵する素材

大分県観光・地域局では、「開山1300年の本番は来年だが、情報発信をはじめとする事前の展開も大切」(観光・地域振興課)と説明。昨年12月に大分市で実施した「おんせん県おおいたツーリズム商談会」では、県内エクスカーションとして「国東半島「六郷満山」と県北「学び」と体験コース」を設定しました。このコースでは、六郷満山寺院の見学や大分県立歴史博物館(宇佐市)の視察などを通して、旅行業界関係者に六郷満山文化への理解を深めてもらうと同時に、キャンペーン実施の周知も図っています。

同県の2017年度県政推進指針でも、「阿蘇を中心とした熊本県との連携」などとともに「六郷満山開山1300年プレ・本キャンペーン実施、誘客、受入態勢整備」が、国内誘客の促進策として位置づけられました。別府・湯布院以外の知名度不足が課題とされる「おおいた観光」にとって、「六郷満山開山1300年」には起爆剤としての期待も高まっており、大分県では「伊勢神宮や熊野古道にも匹敵する素材を持つ国東半島の旅行商品を造成してもらえよう」に取り組みを進めたい(観光・地域振興課)考えです。